
報告者・コメンテーター紹介



加々美光行 (KAGAMI Mitsuyuki)

愛知大学国際中国学研究センター所長、現代中国学部教授

東京大学文学部卒業。アジア経済研究所主任研究員、愛知大学法学部教授を経て、1997年より現代中国学部教授。2002年10月、文部科学省「21世紀COEプログラム」採択に伴いCOE拠点リーダー・国際中国学研究センター (ICCS) 所長。この間、現代中国学部長、大学院中国研究科長などを歴任。主な研究分野は現代中国政治、中国政治思想。主な著書に『逆説としての中国——反近代化精神の敗北』(田畑書店, 1986)、『知られざる祈り——中国の民族問題』(新評論, 1992)、『歴史の中の文化大革命』(岩波現代文庫, 2001)、近著に『無根のナショナリズムを超えて——竹内好を再考する』(共編, 日本評論社, 2007)、『鏡の中の日本と中国——中国学とコ・ビヘイビオリズムの視座』(日本評論社, 2007)がある。



金観濤 (JIN Guantao)

香港中文大学中国文化研究所当代中国文化研究センター主任・講座教授

北京大学化学系卒業。1994年から現職。2005年4月から2005年7月まで愛知大学COE訪問教授を兼任。主な専門分野は中国史、現代中国政治。主な著書に『興盛與危機——論中国社会超穩定結構』(共著, 香港中文大学出版社, 1992)、『開放中的変遷——再論中国社会超穩定結構』(共著, 香港中文大学出版社, 1993)、『中国現代思想の起源——超穩定結構和中国政治文化的演変(第1巻)』(共著, 香港中文大学出版社, 2000)、『系統的哲学』(新星出版社, 2005)などがある。



周長城 (ZHOU Changcheng)

武漢大学生生活質量研究評価センター主任、社会学系教授

武漢大学商学院世界経済系博士研究生院修了。経済学博士。華中理工大学社会学系副教授を経て、1998年より現職。主な研究分野は社会学理論、経済社会学、生産質量研究。主な著書に『社会發展與生活質量』(社会科学文献出版社, 2001)、『経済社会学』(中国人民大学出版社, 2003)、『経済生活中的社会学』(武漢大学出版社, 2003)、『現代経済社会学』(共著, 武漢大学出版社, 2005)などがある。



リチャード・マドソン (Richard MADSEN)

カリフォルニア大学サンディエゴ校社会学部長・教授

ハーバード大学大学院社会学博士課程修了。Ph.D. 中国文化、アメリカ文化、外交関係、比較文化、対話促進についての著書多数。主な著書に“*Morality and Power in a Chinese Village*” (University of California Press 1985)、“*The Good Society*” (共著, New York, Knopf, 1991)、“*Habits of the Heart*” (Berkeley) (University of California Press, 1995)、“*China's Catholics: Tragedy and Hope in an Emerging Civil Society*” (California Academy of Sciences, 1998)、近著に“*Democ-*

racy's Dharma: Religious Renaissance and Political Development in Taiwan" (University of California Press, 2007) などがある。



楊棟梁 〈YANG Dongliang〉

南開大学世界近現代史研究センター所長、日本研究院教授

南開大学大学院歴史系博士課程修了。歴史学博士。同大歴史研究所副所長、日本研究センター所長、日本研究院長を経て2007年から現職。中国日本史学会副会長、中華日本学会常務理事、中国中日関係学会常務理事等を兼任。2004年9月から2005年1月まで愛知大学 COE 訪問教授。主な研究分野は日本近現代史、中日関係史。主な著書に『国家権力と経済発展——日本戦後産業合理化政策研究』(天津人民出版社, 1998)、『近代以来日本経済体制変革研究』(人民出版社, 2003)、『東亜区域経済合作的現状と課題』(編著, 天津人民出版社, 2004)、『日本後発型資本主義経済政策研究』(中華書局, 2007) などがある。



陳東林 〈CHEN Donglin〉

中国社会科学院当代中国研究所研究員

中華人民共和国国史学会常務理事、中国大百科全書中国歴史卷当代卷主編、中国人民大学当代中国研究センター執行主任を兼任。主な研究分野は中華人民共和国史、文化大革命史、晩年毛沢東研究。主な著書に『中国文化大革命事典』(加々美光行監修, 中国書店, 1997)、『毛沢東詩史』(中共中央党校出版社, 1997)、『三線建設: 備戦時期的西部開発』(中共中央党校出版社, 2003) などがある。



周曉虹 〈ZHOU Xiaohong〉

南京大学社会学系主任・教授

南京医学院医学系、南開大学社会学系、南京大学歴史系卒業、博士。現在、南京大学社会学系主任・教授。中国社会学会常務理事、中国社会心理学会副会長、教育部教学指導委員会社会学分委員会副主任委員等を兼務。この間、ハーバード大学フェアバンクセンター、香港中文大学中国研究服務センター、東京大学文学部、京都大学人文社会科学研究所にて在外研究をおこなう。主な研究分野は社会学。主な著書に『西方社会学歴史と体系(第1巻: 經典貢獻)』(上海人民出版社, 2002)、『伝統と変遷: 江浙農民の社会心理及其近代以来的嬗変』(三聯書店, 1998)、『現代社会心理学』(上海人民出版社, 1997) などがある。



エリック・ハーウィット 〈Eric HARWIT〉

ハワイ大学アジア学部教授、愛知大学国際中国学研究センター訪問教授

カリフォルニア大学バークレー校博士課程修了(Ph.D. 取得)。ハワイ大学講師、准教授を経て、2007年から教授。この間、2度にわたり愛知大学 COE 訪問教授を兼任(2004年5月～6月2007年9月、2007年9月～2008年3月まで)。主な研究分野は中国の自動車・電気通信産業。主な著書に、*"Telecommunications and the Internet in Shanghai: Political and Economic Factors Shaping the Network in a Chinese City"* (Urban Studies September), *"The Automobile Industry in China after WTO Entry"* (Harvard China Review, Spring, 2004), *"Building China's Telecommunications Network: Industrial Policy and the Role of Chinese State-owned, Foreign, and Private Domestic Enterprises"* (forthcoming in China

Quarterly, 2006) などがある。



周立群 〈ZHOU Liqun〉

南開大学経済学院教授

南開大学博士課程修了。経済学博士。これまでに南開大学経済研究所副所長、同大経済学院副院長、院長を歴任。国家教育部経済学教育指導委員会秘書長、天津市政府特約研究員、天津市経済学会会長などを兼任。主な研究分野は、企業組織、市場構造、中国における経済学教育問題等。主な著書に『社会主義経済学通論』（共著、人民出版社、2000）、『中小企業的改革与発展』（人民出版社、2001）、『中国経済学類專業教育改革与発展戰略報告』（高等教育出版社、2002）などがある。



並木頼寿 〈NAMIKI Yori-hisa〉

東京大学大学院総合文化研究科教授

東京大学大学院人文科学研究科東洋史学博士課程単位取得退学。東海大学文学部専任講師、東京大学教養学部助教授を経て、1996年から現職。主な編著書・論文に『近代中国研究案内』（小島晋治・並木頼寿編、岩波書店、1993）、『世界の歴史19 中華帝国の危機』（井上裕正・並木頼寿共著、中央公論社、1997）、『中国の近代史と歴史意識—洋務運動・曾國藩の評価をめぐる—』（『岩波講座現代中国』第4巻「歴史と近代化」岩波書店、1989）、『苗沛霖回練事件』（『東京大学教養学部人文科学科紀要』第92輯、1990）、『近代の日本と「アジア主義」』（『岩波講座世界歴史』20「アジアの〈近代〉」、岩波書店、1999）などがある。



小林一美 〈KOBAYASHI Kazumi〉

神奈川大学名誉教授

中国史の研究は、初期（1960年代から70年代）は、清代の農民闘争、民衆反乱や農村社会経済史等を主に研究していたが、その後民衆の意識、宗教などに関心を持ち、白蓮教や義和団の研究に移った。80年代に入り、中国の国家・社会の政治的社会的な構造、特質に関心を持ち、日本や他のアジア諸国との諸制度の比較史的研究を主に行ない、さらに近年は、中国現代の会道門や中共党史の研究もしている。主な著書「義和団戦争と明治国家」（汲古書院、1986）、「清朝末期の戦乱」（新人物往来社、1992）、「中国社会主義政権の出発」（『中国民衆史への視座』、東方書店、1998）、共編著「ユートピアへの想像力と運動」（御茶ノ水書房、2001）、「日本と中国の国家・社会・文化の比較史的考察」（『歴史と文学の境界』勁草書房、2003）などがある。



江沛 〈JIANG Pei〉

南開大学歴史学院副院長・教授

南開大学歴史学系博士研究生修了。歴史学博士。南開大学歴史学系助手、講師、副教授を経て、2000年から教授。この間、中国教育部人文社科百所重点研究基地南京大学中華民国史研究センター客員研究員、中国教育部人文社科百所重点研究基地南開大学中国社会史研究センター兼任研究員、中国現代史学会常務理事・副秘書長を兼任。2007年10月から2007年11月まで愛知大学を兼任。主な研究分野は中国近現代史。主な著書に『毀滅的種子——国民政府時期意識形態管理研究』（共著、陝西人民教育出版社、2003）、『戦国策派思潮研究』（天津人民出版社、2001）、『中国国民党政治結構与社会結構研究』

(共著, 社会科学文献出版社, 2006) などがある。



宋献方 <SONG Xianfang>

中国科学院陸域水循環及地表過程重点实验室常务副主任・教授

河北地質大学卒業。長春地質大学水文地質学・応用地質学専攻修士課程修了、筑波大学地理学・水文学専攻博士課程修了。博士(理学)。科学技術庁部防災科学技術研究所先端解析技術研究部、農林水産省農業環境科学研究所地球環境研究部の研究員を経て、2001年より地理科学興資源研究所教授、2004年より現職。2005年9月から2006年1月まで愛知大学国際中国学研究センターCOE 訪問教授を兼任。主な研究分野は水文学、リモート・センシング、地球科学。主な論文に、A study of interaction between surface water and groundwater using environmental isotope in Huaisha River basin (共著)、A study of groundwater cycle using stable isotope in Sri Lanka (共著)、Conceptual model of evolution of groundwater quality at the wet zone in Sri Lanka (共著)、Conceptual model of evolution of groundwater quality at the dry zone in Sri Lanka (共著) などがある。



高橋五郎 <TAKAHASHI Goro>

愛知大学国際中国学研究センター副所長、現代中国学部教授

1948年新潟県生まれ。愛知大学法経学部卒業、千葉大学大学院博士課程修了、農学博士(生産科学専攻)。現在、愛知大学現代中国学部教授、愛知大学国際中国学研究センター副所長。主な著書に『世界食料の展望—21世紀の予測—』(翻訳)(ダンカン他著, 農林統計協会, 2000)、『新版国際社会調査—中国 旅の調査学』(農林統計協会, 2007)、『中国経済の構造転換と農業—食料・環境のゆくえ—』(日本経済評論社, 2008)『海外進出する中国経済』(編著, 日本評論社, 2008) などがある。



鈴木規夫 <SUZUKI Norio>

愛知大学国際コミュニケーション学部教授

成蹊大学大学院法学政治学研究科博士課程後期単位取得修了。博士(政治学)。日本学術振興会特別研究員、長野県短期大学助教授、ロンドン大学パークベック・コレッジ客員研究員、愛知大学国際コミュニケーション学部助教授を経て、2002年4月より現職。主な研究分野は、政治哲学、国際政治学、イスラーム研究。主な著書に『日本人にとってイスラームとは何か』(ちくま新書, 1998)、『地球的平和の公共哲学—「反テロ」世界戦争に抗して—』(共著, 東京大学出版会, 2003)、『いま平和とは何か』(共著, 法律文化社, 2004) などがある。



馮昭奎 <FENG Zhaokui>

愛知大学現代中国学部客員教授、元中国科学院日本研究所副所長

清華大学電子工学部卒業。1983年、中国社会科学院日本研究所入所、同所経済研究室主任、副所長を経て、2000年退職。2005年から現職。中国全国日本経済学会副会長、中国中日関係史学会副会長を兼務。主な研究分野は、日本経済、科学技術政策論。主な著書に『新工業文明』『日本—戦略的貧国』『日本経済』『中国の「対日新思考」が実現できるか—「対中新思考」のすすめ』(日本語) などがある。



川井伸一 〈KAWAI Shinichi〉

愛知大学経営学部教授

東京大学大学院国際関係論博士課程修了。日本国際問題研究所研究員、在中国日本国大使館専門調査員、愛知大学経営学部助教授を経て、1995年より現職。主な研究分野は、中国企業経営論、比較経営論、株式会社のコーポレート・ガバナンス比較／中国国有企業改革。主な著書に『中国企業とソ連モデル——長制の指摘研究』（アジア政経学会、1991）、『中国企業改革の研究』（中央経済社、1996）、『中国上場企業——内部者支配のガバナンス』（創土社、2003）がある。



古澤賢治 〈FURUSAWA Kenji〉

愛知大学現代中国学部教授

愛知大学法経学部卒業、大阪市立大学大学院博士課程修了。博士（経済学）。大阪市立大学経済研究所教授、所長を経て、2004年から現職。この間、在中華人民共和国日本大使館専門調査員、天津社会科学院客座教授等を兼任。主な研究分野は、中国経済の蓄積構造、中国の経済改革と対外開放、アジア新工業化のダイナミズム。主な著書に『アジア経済論』（共著、ミネルヴァ書房、1993）、『中国経済の歴史的展開』（ミネルヴァ書房、1993）、『イントラ・アジア貿易と新工業化』（共著、東京大学出版会、1997）がある。



佐藤元彦 〈SATO Motohiko〉

愛知大学副学長、経済学部教授

慶應義塾大学経済学部卒業。日本学術振興会特別研究員、愛知大学経済学部専任講師、助教授を経て、2002年から教授。2007年11月から副学長。主な研究分野は国際開発論、アジア太平洋経済論。主な著書に『脱貧困のための国際開発論』（単著、築地書館、2002）、『貧困緩和・解消の国際政治経済学』（単編著、築地書館、2005）、『開発経済学』（共著、慶応義塾大学出版会、2005）などがある。



李春利 〈LEE Chunli〉

愛知大学経済学部教授

中国遼寧省生まれ。京都大学を経て、1996年東京大学大学院経済学研究科より経済学博士号を取得。1997年愛知大学経済学部へ赴任。中国経済論・産業経済論を専門分野とし、研究テーマは「中国製造業の国際競争力と日米欧多国籍企業」「中国の経済発展と資源・環境問題」。米国マサチューセッツ工科大学（MIT）IMVP 兼任研究員、ハーバード大学客員研究員、東京大学客員研究員、京都大学上海センター客員研究員などを歴任。国際ビジネス研究学会賞、日本経営史学会賞受賞。主な著書に『現代中国の自動車産業』（信山社）、*Fordism Transformed*（共著、Oxford University Press）、*Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System*（共著、Tokyo/Berlin: Springer Verlag）など多数。



田中英式 <TANAKA Hidenori>

愛知大学経営学部准教授

名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程単位取得退学。愛知大学経営学部専任講師を経て、2005年より現職。主な論文に「日系企業の技術移転—台湾における現地サプライヤーへの技術移転を中心として—」（『経済科学』第48巻4号、2001）、「日系企業の二次移転——台湾における日系企業3社のケーススタディ」（『愛知大学経営論集』第147号、2003）、「直接投資を通じた技術移転と社会的能力——台湾のケース」（『中国経営管理研究』第4号、2004）がある。



張 琢 <ZHANG Zhuo>

愛知大学現代中国学部教授

武漢大学哲学系卒業。中国社会科学院哲学研究所、同社会学研究所研究員、同研究生院教授、『社会学研究』雑誌編集長を経て、1998年より現職。主な研究分野は中国社会論、中国文化論。主な著書に『九死一生——中国現代化的坎坷歷程與中長期予測』（中国社会科学出版社、1992）、『中国文明與魯迅の批判』（台湾桂冠図書、1993）、『発展社会学』（中国社会科学出版社、2005）などがある



馬場 毅 <BABA Takeshi>

愛知大学現代中国学部長・教授

東京教育大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。東京都立高校教諭を経て1997年より愛知大学現代中国学部教授。2007年4月から現職。主な研究分野は中国近現代史、日中関係史。主な著書に『中国八路軍、新四軍史』（共著、河出書房新社、1989）、『秘密結社と国家』（共著、勁草書房、1995）、『近代中国華北民衆と紅槍会』（汲古書院、2001）などがある。



高明潔 <GAO Mingjie>

愛知大学現代中国学部教授

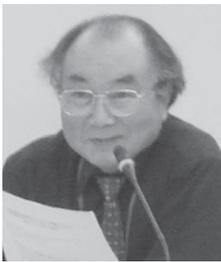
中央民族大学歴史科卒業。中央民族大学民族研究所助手・講師、東京大学教養学部文化人類研究室・東京大学東洋文化研究所汎アジア部門客員研究員・日本民族学振興会特別研究員、愛知大学現代中国学部専任講師、助教授を経て2007年から現職。中央民族大学中国少数民族研究センター客員教授を兼任。主な研究分野は文化人類学。主な著書に『北京的少数民族』（共著、北京燕山出版社、1988）、『最新教科書 現代中国』（共著、柏書房1998）、『内モンゴルはいま——民族区域自治の素顔』（主編著、「中国21特集」vol. 19、風媒社2004）などがある。



周星〈ZHOU Xing〉

愛知大学国際コミュニケーション学部教授

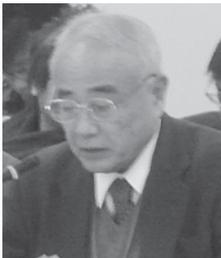
中国陝西省生まれ。西北大学歴史学部卒業。1989年、中国社会科学院大学院博士号（民族学専攻）を取得。北京大学社会学人類学研究所副教授を経て、教授。この間、1992年から1993年まで筑波大学歴史人類学系「外国人特別研究員」（JSPS Postdoctoral Fellow）として日本滞在。2000年、愛知大学国際コミュニケーション学部にて転籍、教授。専門分野は中国民族学と民俗学、現在の研究テーマは国家と民俗・風水と文化空間。主な著書『民族学新論』（1992）、『民族政治学』（1993）、『境界與象徴：橋和民俗』（1998）、『民俗学的歴史、理論与方法』（2006）などがある。



榎根 勇〈KAYANE Isamu〉

愛知大学国際中国学研究センターICCS フェロー 筑波大学名誉教授

東京教育大学大学院修了、理学博士。東京教育大学助教授、筑波大学地球科学系教授を経て、2003年まで愛知大学現代中国学部教授。同年4月より現職。主な研究分野は水循環（水文学）、自然地理学。主な著書に『水文学』（大明堂、1980）、『地下水の世界』（NHK ブックス、1992）、『水と女神の風土』（古今書院、2002）などがある。



藤田佳久〈FUJITA Yoshihisa〉

愛知大学文学部教授

名古屋大学大学院文学研究科博士課程中途退学。理学博士。奈良大学文学部助教授、愛知大学文学部助教授を経て、現職。主な研究分野は地理学、中国地域研究。主な著書に『日本・育成林業地域形成論』（古今書院、1995）『東亜同文書院・中国大調査旅行の研究』（大明堂、2000）『東亜同文書院・中国調査旅行記録・第1～4巻』（大明堂、1994～2002）などがある。



秋山知宏〈AKIYAMA Tomohiro〉

愛知大学国際中国学研究センターICCS 研究員

名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程修了。博士（理学）。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士研究員を経て、2007年から現職。主な研究分野は水文学。「中国甘肅省および内蒙古自治区における内陸河川の水質特性」（共著、『水文・水資源学会誌』17号、2004）、「黒河流域における水利用がその下流域の水循環に与えた影響」（秋山知宏、山崎祐介、王根緒、藤田耕史、中尾正義、窪田順平、小長谷有紀、沈衛榮、中尾正義、史金波編『黒水城人文与環境研究』、中国人民大学出版社、2007）、Akiyama, T., Sakai, A., Yamazaki, Y., Wang, G., Fujita, K., Nakawo M., Kubota, J., Konagaya, Y.: “Surfacewater-groundwater interaction in the Heihe River basin” Northwestern China. *Bulletin of Glaciological Research* 24: 87-94, 2007



朱安新 <ZHU Anxin>

愛知大学国際中国学研究センターICCS 研究員

中国人民大学卒業。北京日本学研究センター修士課程、名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。名古屋大学大学院環境学研究科研究員を経て、2007年から現職。主な研究分野は都市社会学、環境学。主な著書・論文に「ポスト単位時代と地域社会の形成——北京市都心区の単位型地区を事例に」（『日本都市社会学会年報』第24号、2006）、『水と世界遺産——景観・環境・暮らしをめぐる——』（共著、小学館、2007）、『グローバル化時代の新しい社会学』（共著、新泉社、2007）などがある。



楊妍 <YANG Yan>

南開大学周恩来政府管理学院講師

南開大学周恩来政府管理学院博士課程修了、愛知大学大学院中国研究科博士後期課程（ICCSデュアルディグリー・プログラム）修了。法学博士、博士（中国研究）。主な研究分野は政治学理論、政治学。主な論文に「中国農村公共服務と環境発展」（『華中師範大学学报』2007年第3期、2007）、「現代化進程中地域主義与国家認同危機」（『蘭州大学学报』2007年第2期、2007）、「現代化進程中社会分化と政治穩定互動効応分析」（『雲南社会科学』2004年第3期、2004）などがある。



方琢 <FANG Zhuo>

中国国家開発銀行総合計画局職員

南開大学経済学院博士課程修了、愛知大学大学院中国研究科博士後期課程（ICCSデュアルディグリー・プログラム）修了。経済学博士、博士（中国研究）。上海申銀万国証券研究所宏観策略部勤務を経て、2007年から現職。主な研究分野は国際金融論。主な論文に「国際貨幣の交易職能分析初探」（『対外経貿実務』、2006）、「貨幣国際化的影響因素探析」（『国際経済合作』、2006）、「中日貨幣国際化比較研究」（『経済縦横』、2006）などがある。



許光清 <XU Guangqing>

中国人民大学環境学院副教授

中国人民大学環境学院博士課程修了、愛知大学大学院中国研究科博士後期課程（ICCSデュアルディグリー・プログラム）修了。環境経済学博士、博士（中国研究）。中国人民大学環境学院講師を経て2007年から現職。主な研究分野は環境経済学。主な著書・論文に『処於不同發展段階的城市可持續發展系統分析』（経済日報出版社、2007）、「系統動力学方法：原理、特点与最新進展」（共著、『哈爾濱工業大学学报（社会科学版）』、2006）などがある。



湯忠綱 <TANG Zhonggang>

華僑大学人文与公共管理学院講師

中国人民大学哲学院博士課程修了、愛知大学大学院中国研究科博士後期課程（ICCSデュアルディグリー・プログラム）修了。哲学博士、博士（中国研究）。2006年から現職。主な研究分野は文化哲学、現代新儒学。主な著書・論文に『徳性と政治』（2007）、「心靈与審美的合一」（『江西廣播電視大学学报』、2001）、「文化概念界説新論」（共著、『南昌大学学报（人文社会科学版）』、2003）などがある。



大野太幹 〈ONO Taikan〉

愛知大学国際中国学研究センターICCS 研究員

愛知大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。博士（中国研究）。2006年から現職。主な研究分野は近代日中関係史、近代中国東北史。主な論文に「満鉄附属地華商商務会の活動—開原と長春を例として—」（『アジア経済』第45巻第10号，2004）、「満鉄附属地居住華商に対する中国側税捐課税問題」（『中国研究月報』第691号，2005）、「1920年代満鉄附属地行政と中国人社会」（『現代中国研究』第21号，2007）などがある。



劉曉慧 〈LIU Xiaohui〉

愛知大学国際中国学研究センターICCS 研究員

信州大学卒業、大阪教育大学修士課程、愛知大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。博士（経営学）。2006年から現職。主な研究分野は国際経営学。主な論文に「在中日系電子企業の国際提携：その戦略性の形成と展開—松下電器産業を事例として—」（『国際問題研究所紀要』第126号，2005）、「経営資源の補完と在中日系電子企業の提携」（愛知大学21世紀COEプログラム『若手研究者研究成果報告論集』No. 1，2006）、「戦略提携における知識創造のプロセス分析—唐山松下を事例として—」（『国際問題研究所紀要』第128号，2006）。

李志東 〈LI Zhidong〉 [論文参加]

長岡技術科学大学経営情報系教授

中国人民大学卒業。1990年に京都大学で経済学の博士号を取得し、日本エネルギー経済研究所研究員、主任研究員、長岡技術科学大学助教授、准教授を経て、2007年から現職。日本エネルギー経済研究所客員研究員、中国エネルギー研究所客員研究員、朝日新聞アジアネットワークフェローを兼務。主な研究分野はエネルギー経済学、環境経済学、計量経済学。著書・論文に『中国の環境保護システム』（東洋経済新報社，1999）、「China's Sustainable Energy Strategies in The 21st Century”，edited as the Special Issue of *the International Journal of Global Energy Issues*, Vol. 24, Nos. 3/4, 2005（共著）③『東アジア共同体を設計する』（進藤榮一・平川均編，日本経済評論社，2006）など論文等多数。